

# 図書館の未来を見る

in イギリス

現代文化学科 叶内葵 藤井香月 森谷茉杜香

# はじめに

本の電子化が普及し始めた現代で、図書館のあり方が変わってきています。いまや図書館はただ本を所蔵する場所・貸し借りする場所ということだけでは成り立たなくなってきました。そこで私たちは海外の歴史ある図書館から今図書館に必要なことは何かを考えるきっかけとしてイギリスの図書館を見る計画を立てました。日本では図書館は本が無料で見ることが出来る場所という考え方が一般的であります。イギリスの人々は図書館は勉強するには最適な場所と考えています。この考えかたの違いについて知るのと同時にここからの図書館の未来を見ようと思っていました。

予定では沢山の図書館を見るのですが、運悪く休館であったりと2つしか見れませんでした。日本の図書館とは全く違い驚きと共に関心した旅でした。大きい図書館であればあるほど多くの利用者があり、席も常に満席でした。日本では図書館に行くと大半は高齢者や小さい子どもたちのようなイメージがありますが、イギリスでは老若男女問わずでした。またセキュリティの面やデザインの面などやはり海外との価値観の差が端々と感じられました。

# 1日目(2月27日)

不安8割り、楽しみ2割の中飛行機に乗った。10時間以上のフライトが初めて出会ったがあっという間の飛行機の旅でした。

イギリスに着くとまだ2月ということもあり少し肌寒かったです。見るもの全てが別のよう感じられ、小さい子どものようにあちこち見回しました(苦笑)

そこに住む人たちの行動からもやはり文化の違いが感じられ、自分たちの常識がここでは通じないことがしっかりと伝わりました。

## 【豆知識】

羽田空港の国際ターミナルには絵馬の自販機があり、旅の安全祈願ができる！







## 2日目 (2月28日)



観光名所である大英博物館は建物からとても趣があった。残念ながら図書室閉まっており、見ることは出来なかった。しかし館内は1日かけて全てまわった。博物館には観光客だけではなく、小学生の集団を見かけました。子どもたちはタブレットを使って勉強していました。そこで、大英博物館は観光名所ではあるが、そもそもは勉強する場所なのではないかと思いました。勉強する場所であるのなら図書室があるのにも納得しました。展示してあるものに関係する本を置くだけではなく、勉強する場所として図書室があるのかもれないと思いました。





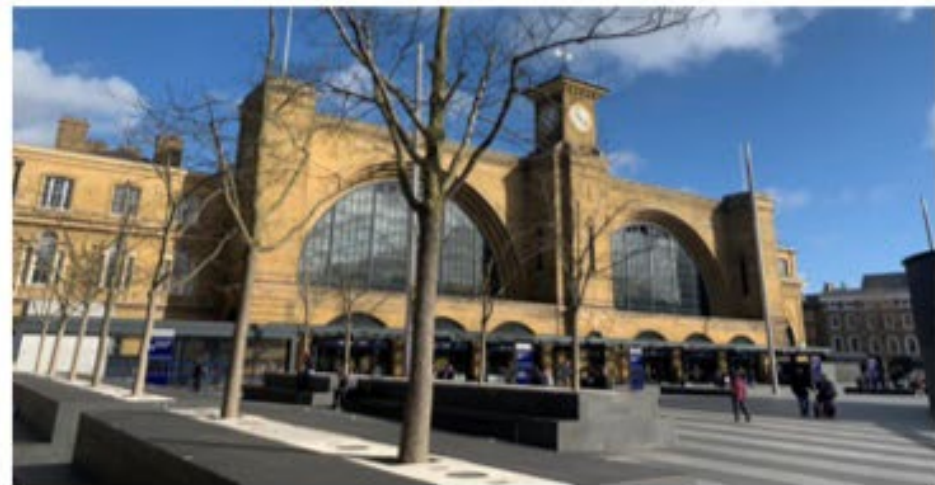
## 3日目(2月29日)

オックスフォード大学は圧巻の一言につきます。同じ大学であっても何もかも違うことに驚くことばかりでした。

オックスフォード大学の図書館は外から見ると別々の場所にあるでしたが、地下に道を作って図書館同士を繋げていました。歴史的な古い建物の中には、現代的な作りの図書館になっていて驚きました。離れたところにあって不便ではないかと、訪れる前は思っていたが、地下に図書館をつくることで、そういったことは感じられないのだと思いました。







## 4日目(3月1日)

最終日は大英図書館とキングクロス駅に行きました。日本にはあまりイメージがありませんが、大英図書館はロンドンの観光スポットとして有名な場所です。ここでは利用者がどんな風に図書館を利用しているのかを見ました。ほとんどの人は読書ではなく、勉強を行っていました。左上の写真のように勉強スペースとして、座席があるのですが、そこでほとんどの人は勉強していました。逆に本を置いている所はあまり人はいませんでした。座席も少なかったため、イギリス人が図書館を勉強する場所と見ていることが感じられました。

